



紹

介

クリストファー・ゼクストン著

丸田浩、マーティン・ラムゼイほか訳

『バーネット——メルボルの生んだ天才』

メルボルの天才——免疫学者、バーネットの自画像(本書の表紙、——扉、並びに四三頁)に接するだけでも深い感銘を感じるのには私一人ではない。

訳者達が尊敬する水野伝一教授の門下生の方々であることも私には強い共感を呼ぶ。

私は本書を手にして満一カ月の間、頁を繰り、行間に感動を深くして赤線を引き、蛍光ペンで感動を深くし、殆ど全頁約三〇〇頁が赤線や蛍光ペンで書の色を変える程に感銘は強くなりました。これは私一人の読後の感動だけではなく、これを全国の若い医学生、研究生達や病院医局の方々にも先ず一読して頂き、南半球でバーネットが稀に見る天才、偉人として生れて育ち、発展して人類の健康、幸福の為に如何に学び、努力し、家族を造り、友情を育てつつ実験して真理を把握し、更に深く哲学して独創の新しい学説を樹立して行ったかの軌跡が、バーネットを敬愛する周囲の温かい友情と善意によって述べられている。

バーネットの伝記は夫々その生涯の躍動する各章に分かれ

ている。(1)新しい始まり、(2)田舎町からカレッジへ、(3)大学時代、(4)門出、(5)最初の発見、(6)ウイルス学者、(7)戦時中の研究、(8)新任所長、(9)収穫期、(10)ノーベル賞、(11)元老、(12)偉大さの根源、(13)科学的世界観、(14)世界は彼の研究室、(15)バーネットの死、その他バーネットの著作、講演資料の詳細、とオーストラリアの全国地図、並びにヴィクトリア州の要図が掲げられている。

私は約三〇年前に京大講堂で、彼の極めて簡潔、明解、平易な英語の講演を二枚のスライドを説明しながら淡々と語った彼に深く感動した一人であるが、バーネットがウイルス学者として、また画期的な免疫学者として、溶原化と溶菌の関係を鮮やかな実験的手法によって細胞免疫の実存を指摘した慧眼に感動すると共に双生児仔牛の植皮実験からクロン選択説や免疫学的寛容などの新学説を樹立した慧眼と天才振りに感動を深くするものである。

更にバーネットは自己免疫病と云う不可解な疾患の解明に向って解明の鋒先を進めた。

また一九二八年にはジフテリア予防注射に伴うブンダバグ事件に於て注射液からブドウ球菌を実証して新しくαトキシンを確認して新知見を加えた。

バーネットは正に天才的生物科学者でウイルス学者としても牛痘、鳥痘、インフルエンザ、オーム病、Q熱、ヘルペス、黄熱、ニューカッスル病ウイルス、狂犬病ウイルス、ポリオ、サルスのBウイルス、ブタの擬ウイルス等広汎な生態学的アブ

ローチはバーネットの科学的方法の典型的特長を示している。バーネットは戦時中もメルボルン陸軍病院の病理所長に任命され活躍し続け、インフルエンザの予防、天然痘の予防、恙虫病の予防に尽力した。次第に実績を挙げつつ世界的に著名な学者達(スタンレー、アウヰリー、デイクソン等)とも友情を深めつつ、ルネ・デュボス、エンダース、ミュラー、フォルバツハ等とも交流した。さらにビードル、テイタム、ポーリング等とも出合っている。

バーネットの天才は数学的論理性の天分の上にスコットランド人的先見の明を組合わせたものであると著者等は論じているが、バーネット自身は満足した由であるが、基本的には遺伝的なものと結論されている。バーネットは「人間の思想及び行動は無限に複雑で、凡ては脳にある偉大な神経節の中にあるが、ある程度の心の問題に関しては科学者よりも詩人の方がよりよく説明し得るかも知れないと私は信じたい。」と述べている。

バーネットの科学的世界観は「伝染病の生物学的考察」、男女感覚、生物人類学、医学的アプローチ、人間の本质論(対向性、愛情、英智、遺伝性、人口増加、兵器の増加、資源の涸渇、環境破壊、技術開発の無制限)を論じ、バーネットは安定した現代道徳論を唱え、身心の健康が凡ゆる個人に保護されねばならない①、凡ゆる個人に学術的知識、及び手先の器用さを学ぶ機会が与えられなければならない②、凡ゆる個人に功績を挙げるチャンス、及びその成功の評価が保証されなければならない

ない③、以上三つの条件は次の世代の人々にも現世代の人々と同様に与えられなければならない④、之等の四条件は知識人や管理職等少人数の人々による創造的な意見や行動にかかっているとバーネットは考えた。彼はフランシス・ゴールトンのエリート結婚論を支持して、人類将来永遠の健康平安を祈っている。バーネットの満八十五年の永い生涯は日々新たに科学し、道を求めて倦まず、リングダ夫人の内助の功を感謝し、愛情を重ねて白血病不治の夫人を看取り、自らも人生を大悟完成して静寂の中に温かい家族の心の中に身をゆだねて安楽往生、満足の死を自ら「腸癌」と手帳に書き残して尊い人生を閉じた記録が本書である。私も医道を歩む若輩の青二才のまま老化した若徒であるが、更に新進気鋭の医学生、薬学生、獣医科学生、生物科学生達初め天下の医局員、福祉、看護関係の方々各家庭に一冊宛本書を備え付けて、自然科学、生物科学に哲学を加えられて、一層人生を豊かに深くせられ、夫々悔いのない人生を完成される為に南半球の生んだ天才自然科学者バーネット博士の人生哲学を座右に置いて、彼の崇高な温かい人情に学び、健康平和の理念を折に触れて読み取られつつ共々に不可解な人生を一步でも完成に向って歩きましょう。

(山中 太木)

〔学会事務センター刊・東京都文京区本郷六―二―一〇、電話
〇三―三八一四―二〇〇一、一九九五年六月発行、四六判、三
一二頁、三四〇〇円〕